

令和2年度第3回総合教育会議 会議録

1. 開催日時 令和3年2月16日(火) 15:30～16:50

2. 開催場所 西条市庁舎新館4階404会議室

3. 出席者 【構成員】

西条市長 玉井 敏久

教育長 伊藤 隆志

教育長職務代理者 田邊 重義

委員 河本 千恵子

委員 福田 亜弓

委員 鳳 慶洲

【構成員以外】

副市長 越智 三義

総務部長 高橋 雄次

管理部長 三好 昭彦

指導部長 松井 直樹

市民生活部副部長兼人権擁護課長 近藤 誠

管理部副部長兼教育総務課長 高橋 壯典

指導部副部長 合田 公昭

教育総務課主幹 村上 彰彦

社会教育課長 安倍 和紀

社会教育課主幹 岩崎 晃彦

学校教育課長 越智 英治

学校教育課主幹 黒河 幸彦

【事務局】

経営戦略部副部長兼政策企画課長 大西 保彦

政策企画課政策企画係副主査 石水 好幸

4. 市長挨拶

今年度最終となる総合教育会議にご参集いただき、感謝を申し上げます。本日の会議は報告が2件、協議が1件となっている。協議事項である教育大綱改訂案については、子どもたちの未来のために、これからの西条市について協議を進めてまいりたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

5. 報告

(1) 西条市の教育に関するアンケート調査の結果について

副市長から説明

- 市長 今回のアンケート結果については、今後の対応策を考えていく一つの材料となってくる。
- 田邊委員 教職員の事務量軽減ということで、各学校で工夫して業務改善されているが、システムの導入なども含め、どの程度効果があったのか。
- 指導部長 ICT教育に取り組むことで、子どもたちにわかりやすい授業を提供できるようになってきたが、情報量が多くなればなるほど処理にかかる時間が増えてきている。本来かかっていた事務量軽減に関しては、ある一定の効果はあったものの、子どもたちと向き合う時間の確保ができていないかと言えば、まだ満足できる程の軽減に至っていないのが現状である。
- 市長 ICT教育の報告書の中では、事務量は軽減してきていると報告が上がってきているが、GIGAスクール構想など、次々と新しい技術が導入されるので、先生方も混乱している部分があり、現場は大変な思いをしている。
- 鳳委員 資料1の「(5) 未来の小学校や中学校にお子様を通う場合の考え方」の中で、将来的に複式学級になることが現実味を帯びてきた段階で議論を進める必要があると明記されているが、数年内には複式学級になることが見えている学校もある中で、現実味を帯びてきた段階というのはどの段階を意味するのか。
- 副市長 西条市総合計画 32P に、2010年～2045年の小学校別児童数の推計値を掲載しているが、2030年以降、複数の小学校で60人を下回る学校が増える推計値となっている。これを見据え、今回の総合教育会議の資料ではこのような表現でご説明させていただいた。
- 市長 この件については大変デリケートな問題だと思っている。愛媛県県立学校振興計画検討委員会においては、令和5年度に向けて県立学校再編の新基準を作成しようとしている。再編に向けたフローチャート案を基に、県内8地区に分けて協議を進めている。それを踏まえると、遠い段階の話ではないという感覚はある。まだ詰めきれていない部分が多いため、具体的にいつからとは申し上げることはできないが、今回のアンケート調査結果を受け止め、しっかりエビデンスに基づいて議論を進めていく必要がある。
- 福田委員 小学校及び中学校教員向けアンケート調査 2P の年齢の数値において、50歳代以上の教員が非常に多く、続いて20歳代の教員が多いという結果がみられるが、教

員の資質向上が課題という意見は、高年齢の先生方が多く感じているというのが結果として出たように感じる。いずれ50歳代の方は次々に退職されると思うが、資質向上をどのように図っていくのが課題だと感じた。60歳代の方で再任用の教員として先生をされている方がいらっしゃるが、そういったベテランの方の教えが必要ではないか。これから若い先生方の資質向上をどのように図っていくのか、今後の取り組みについてお伺いしたい。

学校教育課長 教員の年齢割合について、小学校では、29歳以下が24%、30～39歳が17%、40～49歳が17%、50～59歳が32%、60～69歳が10%である。中学校では、29歳以下が21%、30～39歳が14%、40～49歳が18%、50～59歳が30%、60～69歳が11%であった。現在29歳以下の若い先生が増えてきているが、30歳代の先生の数が極端に少なくなっているのが現状である。今後は、若手の先生を育成していくことが非常に重要となってくるので、クラス担任をベテランの先生と若手の先生をペアにしてチームを組むことで、子どもの心理状態や学級活動、学級経営などをベテランの先生が若手の先生に指導し、逆に若手の先生は普段からICTを生活の中で活用しているので、ICTに関する使用方法を若手の先生からベテランの先生に教えるなど、それぞれの得意分野を活かし、各学校が個人ではなくてチームで学校経営ができるよう実践している。

田邊委員 資料1で、特に中学校のベテランの先生が、教員の資質向上を問題として捉えているというまとめであったが、中学生は非常に多様な人間模様で、問題も多様化し、体も大人に成長してくる時期であり、対応の多様化によって大きな問題に繋がることもある。そういった中、経験で培っていく部分もあろうかと思うが、どのように立て直し、資質向上を図っていくのか。

指導部長 各学年において年齢配置を考えたり、生徒指導面で家庭を訪問したり、保護者に学校まで来ていただいたり、そういった対応時にはかならずベテランと若手の先生がペアで対応し、どのように子どもと向き合うのか、どのように問題と向き合うのかということを示しながら、若手を育てていく活動をしている。私たちの若い頃は、先輩やベテランの先生の指導を学びながら、与えられた仕事は得意不得意関係なくやらなければならないイメージだったが、現在は不得意な部分はここまでしかできないというように、ある意味良い考え方になってきていると思うが、そういった割り切りがベテランの先生の培ってきた指導方法が若手の先生にスムーズに受け継がれないこともあり、指導も難しくなっている。

田邊委員 多様化して難しい問題が多いと思う。更には部活動も兼ねられ、大変な業務を抱えられている中で、やはりベテランの先生方が監視しやすく、若手の先生方が相談しやすい環境づくりがとても大事だと思うので、よろしくお伺いしたい。

田邊委員 次に、中学3年生の進路については市外に出られる方もかなりおられると思うが、市としては市内で通ってもらいたいという思いがあり、我々もそう思っている。11月時点で10%程度の方が市外への進学を希望しているが、市外への高校に進学する何らかの事情をどのように把握し、どのようなご対応をお考えか。

指導部長 西条市内5校の魅力を発信していただこうと考えている。教師が説明するのではなく、高校生が中学校に出向き高校の魅力を積極的に発信する取り組みを実施しようとしていた。しかし、新型コロナウイルスの影響で交流に制限がかかってしまったため、今後ある程度収束した時点で、地元の高校生からどんどん魅力を発信してもらいたいと考えている。

市長 高校進学の関係では、愛媛県県立学校振興計画検討委員会において、魅力のある学校という言い方をしていたが、その魅力は子どもたちにとってなくてはならないもので、どんな魅力なのか、進学をする上で有利に働くのかなど、将来的な展望も含めながら学校の良さを知ってもらい、市内に残っていただけるように対策を模索する必要がある。

(2) パブリックコメント意見募集の結果について

副市長から説明

市長 今後ホームページで公表予定であり、修正点などあればご意見をお願いしたい。

意見なし

6. 協議

(3) 西条市教育大綱の改訂について

副市長から説明

河本委員 教員の資質向上について、しっかり受け止めなければならない。学校を訪問すると3分の1程度が若い先生になっており、学校が若くなったと感じる。この若い先生たちを如何に育てるか、如何に力をつけて学校を回していくかというのが、これからの課題だと思う。自分が教員だった頃を思い返しても、講習会などで学んだり、先輩の授業や学級経営を見させていただいて自分の力になってきたと思うので、事務量が軽減され、空いた時間に先輩の授業を見せていただいたり、話が聞ける関係作りのある校内運営ができれば、若手が育っていくのではないかと考えている。ぜひ市全体、学校全体で若手を育てていただきたい。

教育長 今回の資料で本当に大きなことを学ばせていただいた。資料1の2P「なぜ40歳以上の教員が特に教員の質や人数の充実を求めているのかを検証する必要がある

るのではないか」について、子どもにとって学ぶ環境はパソコンでもなければトイレでもない、やはり教員だと自分たちは教えられてきた。現在、若手が増えていの中で、管理職や主任の先生方で話し合い、西条市の教育あるいは学校のレベルや質を落とさずに担保しながら運営していくことが、これからの責務になってくるのではないかと感じた。これから教員の資質向上というのは、本当に大きな課題になると思う。教育大綱も改訂されたので、市長部局と教育委員会が連携しながら課題に取り組んでいく必要があると改めて感じた。

市長 やはりチームで取り組んでいく必要がある。西条市総合計画では「みんなで実現しよう」を合言葉にさせていただいているが、やはり学校経営・学級経営においても、しっかりチームで動かし、みんなで実現していくということが大切な姿勢ではないかと改めて感じた。

福田委員 教員も保護者も教育に何を求めているかという、このアンケート結果からみえるように、表現力やコミュニケーション能力、人間関係を築く力をつけさせたいなど、そういった基本的な部分が保護者の意見として多いと思う。チームで取り組むというのは、表現力やコミュニケーション能力、人間関係を築く力に繋がってくるので、背中を見ている子どもたちに良い背中を見せられるよう、まずは教員、保護者、地域が一体となってチームとなり、学校や地域を盛り上げていってほしいと思う。

市長 西条市教育大綱の改訂について、この内容でご承認いただけるか。

承認

7. その他

市長 1年間を通して委員の皆様と教育大綱の改訂に向けた議論を進めてきたが、改訂の内容はもとより、こうして皆様と議論することが大切だと思っている。人権教育の内容も含め、これが多くの方のご意見だと思うし、声なき声もこの中には入っていると思う。これまで自分自身としては、子どもたちの声がある限りは地域づくりの核である小学校を統廃合しないという意思表示を今日までしてきた。しかしながら、少子化が深刻化する中、このアンケート結果をみると、理想と現実のギャップが現れてきていると思うところもあり、子どもたちの将来の教育環境に不安を抱えていたという状況を、このアンケートの中で見えてきたように感じている。西条市総合計画において、2030年には西条市の10校程度で1学年10人を下回る推計値があり、また、愛媛県の公表によると、南予地域ではすでに約45%の学校で複式学級が導入されているのが現状である。次の時代の教育環境のあり方を考え、子どもたちのために行動し、今を生きる私たち大人世代が責任をもって対応していかなければならない。私自身、子どもたちの声がある限りは小学校の統

廃合はしないという気持ちを持ちつつも、将来に向けてどのような形が良いのか再考していかなければならないと思直しているところ。令和3年度以降の総合教育会議においては、将来に向けて解決していかなければならない課題を定義させていただきながら、教育委員の皆様とともに議論を深めていきたいと思っている。課題が山積している中で、市長部局と教育委員会が縦割りではなく横串の連携を意識しながら、しっかり未来を見据えた西条市の教育行政施策を推進してまいりたいと考えているので、引き続きご指導いただくとともに、前向きな発言をいただきながら、これからもよろしくお願ひしたい。